

(ご参考①) 平成22年度の経営方針と中間期実績

平成22年度 経営方針：「変化の先を読み、新たな規制・競争環境においても着実な成長を実現するビジネスモデルへの転換を図る」「リスクリターン・コストリターンを重視し、アセットクオリティの改善と経費・クレジットコストのコントロールを徹底する」

海外・証券等の成長分野への資源投入により、収益力強化を図るとともに、円滑な資金供給を行いつつ、アセットの入れ替えによるリターンの改善とクレジットコストの抑制に注力し、「強靱な資本基盤の確保」と「着実な成長を実現する事業ポートフォリオの構築」を推進。

強靱な資本基盤の確保 ⇒ 連結Tier I比率10%程度以上を継続的に確保

- ・業務計画に則った着実な収益の計上
- ・保有株式にかかる株価変動リスクの削減
- ・NYSE上場に向けた取組み

着実な成長を実現する事業ポートフォリオの構築 ⇒ 中期的には連結ROE10%程度を目指す

<既存ビジネスの見直しによるボトムライン収益の強化/業務プロセスの改善による生産性の更なる向上>

- ・円滑な資金供給を行いつつ、アセットの入れ替えによるリターンの改善/クレジットコスト・経費の抑制に注力

<成長分野への重点的な取組みによるリターンの追求/アドバイザー機能の活用による顧客対応力の更なる強化>

グローバルマーケットにおける特定分野

法人向けソリューションビジネス/投資銀行・信託業務

ホールセール/リテール証券業務

個人向け金融コンサルティングビジネス

支払・決済・コンシューマーファイナンス

平成22年度中間期業績の概要及び戦略施策の進捗状況

平成22年度の連結中間純利益は、SMBCの業績が好調に推移していることや、グループ会社の業績も堅調であること等から、前年同期比 +2,940億円、5月予想比 +2,575億円の4,175億円となる。連結、SMBC単体とも、平成13年度の合併以降、半期ベースで最高益。

海外業務において拠点網や対応組織の拡充等を進めるとともに、日興コーディアル証券においてはSMBCとの連携体制やホールセール証券業務を強化。また、「グローバルプレーヤーとしてのビジネス展開」に向け、11月にはNYSEに上場。

強靱な資本基盤の確保

<順調な業績>

(SMBC単体)

業務粗利益—— マーケティング部門は略計画通り
市場営業部門は計画比、大幅な上振れ
経費率—— 前年同期比、大幅に低下
クレジットコスト—— 前年同期比、大幅な削減

(SMFG連結)

中間純利益—— SMBCの増益を主因に、前年同期比、5月予想比ともに大幅な増益

Tier I比率—— 12.32%に上昇(22/9月末)
(速報値)

<NYSE上場の実現(22/11月)>

		(億円)		
		22年度中間期	前年同期比	5月予想比
(SMBC単体)	業務粗利益	8,386	+ 1,192	+ 1,186
	経費	▲ 3,453	▲ 36	△ 47
	<経費率>	41.2%	△ 6.3%	△ 7.4%
	業務純益*	4,933	+ 1,156	+ 1,233
	与信関係費用	▲ 433	△ 1,136	△ 667
	中間純利益	3,512	+ 2,386	+ 2,012
(SMFG連結)	中間純利益	4,175	+ 2,940	+ 2,575

* 一般貸倒引当金繰入前

着実な成長を実現する事業ポートフォリオの構築

<グローバルマーケットにおける特定分野>

- ・中国の日系企業取引について内外一体となったより円滑なサポートを提供する体制を整備(22/4月)
- ・中国を中心とした海外拠点網の拡充
— 3拠点開設済、3拠点認可取得
- ・アジア・プロダクト推進部設置(22/5月)
- ・地場大手行との資本業務提携
— コタック・マヒンラ銀行(インド)、バンコ・デ・ホゴタ(コロンビア)

<ホールセール/リテール証券業務(日興コーディアル証券)>

- ・国債のプライマリディーラー資格の取得
- ・エイティ業務の強化
— 新トレーディング・システムの本格稼働、株式調査部新設(22/8月)
- ・海外展開
— SMBCの子会社を通じ、英国にて証券業務開始(22/10月)
- ・SMBCとの連携強化
— 法人のお客さま紹介業務、個人向け金融商品仲介業務、SMBC・バークレイズとのプライベート・バンキングにおける業務協働(22/6月)、銀行代理店業の開始(22/10月)